

天理教青年会創立100年 夕張の会員おぢばに結集！



ひきよせ

天理教夕張大教会
北海道岩見沢市9条西6丁目
〒068-0029 ☎0126-22-1248
FAX 0126-23-7275
HP bariten.main.jp
yubaridai146@gmail.com

10月28日 青年会創立百周年記念総会（記事3ページ）

貴方への手紙 (299)

今年は何年より初雪が遅くて比較的暖かい日が続いています。これを書いている今日は11月9日。あなたが読まれる頃には雪かもしません。寒さに負けずにお元気で！

「今できることがある」

私はそれを自分に言い聞かせて暮らしています。実際、毎日、何かできることがあります。年を取っても生き生き暮らすコツは「今日用」と「今日行く」。その言葉は多くの人が知っています。以前にも紹介しましたね？今日用があつて、今日行くところがある。それはありがたいこと。この元気の秘訣を私はいつも意識しています。

とを大きな親と思つたら良いのですね。自宅でも教会でも一日一度は神様を拜むことが親孝行の始まりでしょう。

子供達は仲良く、元気に感謝して喜んで暮らす。人間が助け合つて陽気ぐらしをしようと親神様は喜びで更にご褒美を下されます。

人間はたくさんのお与えをいただいて生まれてきた。プレゼントをもらつて生まれてきたのですね。宝くじを何百万回も連続で当選するぐらい低い確率で人間は生まれてきた、と言われます。せつかく生まれてきたもの、喜んで暮らさなければもったいない。それなのに世の中には不平不満を毎日数えて暮らしている人がいる。その一方で嬉しいありがたいことを数えて暮らす人もいます。

月始めに家族が勢ぞろいしました。子供や孫の顔を見る事は一つの幸せです。親としては嬉しい。親神様と人間も同じ事。神様のこ

御守護を信じ、喜びを感じているお互いは、できるだけ嬉しいこととありがたいことを数えて暮らさないでどうする？と思うのです。

今後の予定

- 11月23日 少年会冬のお楽しみ会
- 9時30分受付 14時解散
- 12月28日 年末大掃除・餅つき(予定)

不平不満には不平不満が集まり、喜びには喜びが集まるとよく言いますが、私もそれはあると思えます。信仰ではよく話題にのぼりません。ですから私は不平不満を絶対に言わないなんてことはなくても、思いつきり言つた事は多分ありません。言つたらどうか？多分自分が寂しくなるのじゃないかと。それでおかげさまで私は喜びごとを数える人になつて、喜びクセがついたかもしれません。心のクセというものはあるもので、それが話し方にも出ます。もちろん態度にも現れます。最初から怒り口調の人、文句言いの口調、ぼやき口調、嘆き口調。それは単なるクセなのかもしれない。私はどれだろう？自分が気づかないのがこわいもの。本当はいつも笑顔で相手に語りかけ、言葉で喜びのプレゼントができれば最高とは思っていますが、それができているかどうか？何歳になつても反省することが多いものです。

★夕張大教会
ホームページ
bariten.main.jp



十月 秋季大祭の様

秋晴れの好天となったこの日、奏楽の中、リンゴ、柿、ブドウなど秋の味覚が次々と供えられ、大教会長は祭文で、立教に所縁ある大祭を勇んでつとめる旨を述べました。続いて座りづとめ、てをどりをつとめ、鳴物の音も高らかに陽気な、みかぐらうたが響きました。



講話に立った大教会長は、まず馬追、北弘の少年会の隊長の辞令を渡され、次いで9月のお運びで新しく教会長となった南幌(旧萬善)分教会五代会長の齊藤智明さんと、志加ノ谷分教会四代会長の岩佐善昭さんを紹介し、エールを送りました。

そして「この10月26日で天理教がはじまつて181年。そこで立教に所縁あるお話をさせていただきます。皆さんご存知のことではありませんが、これは天理教のホームページ(以下HP)にも易しく載っていますので、どなたでもご覧頂ける話であります。

少し夕張の話をすると、夕張大教会のHPが出来ました。ひとつ店を開いたようなものですが、東京の立川に居る次女が私も遠くからでも応援したいと言うので、得意の分野でHPを作ってもらいました。簡単な歴史や建物が出て、行事の案内もさせていただきます。またそこ

から天理教のHPにも移れますので、教えを初めて聞く人でも、深く知りたい方もご覧頂きたいと思えます。」と話され、そこから教祖の生い立ちから、ご性格、中山家へのご入嫁、親孝行をし、怠け者を教化し、物乞いの女性に衣食を出し、背中の赤ん坊にもお乳を飲ませ、黒痘瘡となった預かり児のために裸足参りをして、たすかりを祈ったことなど、ご事歴を読まれました。「夫・善兵衛様は目を、長男・秀司様は足、教祖となる中山みき様は腰に知らせを頂き、ついに、天保9年10月26日、その祈禱の最中に、天理王命様が降りられました。教祖の身体が弱つてくるのを見ていられず、また親神の思召しを信じて、夫・善兵衛様が『みきを神のやしろに差し上げます』とお受けした。その日が立教の日であります。

さづけを渡して、世界たすけに向かいます。私の資料によると、教祖が現身を隠される頃、天理教の信者は4万人くらい、今の北海道の信者数くらいでした。それが10年後の夕張出張所も出来た明治30年には、314万人と言われます。約100倍になった。これは日本の全人口が4千万人くらいですから、約1割弱が天理教になったわけです。それで時代の政府が、こりゃ大変なことになる、と内務省秘密訓令というのを出して、天理教の信仰の拡がりを止めようとしています。

ここで夕張の歴史の話をしますと、夕張は明治30年という大変な年によく出張所を開設出来たと思えます。前年、明治29年には、てをどりを十二下りまでつとめることが出来なかつたのが、伸びていき明治31年の大水害という節を生き節として道内の各地に人材が拡がっていきます。そして夕張の基礎が出来たのです。(中略)

しかし今、この教会が天理教ではなく、お寺だと思っている人がいる。いつも合唱団の練習で教会に入入りしている人の中にも居て、私の布教力の無さを痛感しました。

若い頃、天理教は社会に通用しないぞ!と言う友人がいた。教会の息子なんですが、親に反発して家を出た。しかし世の中では悩んでいる人がたくさんいて、この友

青年会ひのきしん隊11月隊 3名入隊中



河本佳朗 (梅伊達) 藤崎 勇 (旭都) 渡部修太 (清真布)

人にも相談が来る。彼は教祖のひながたを知っているから、そんな時にはこうしたらどうか、とか助言をしていた。そうして何人もたすけたらしい。

時が経って父も母も出直して、とうとう彼に教会長を、という日が来た。彼は「私ほど親不孝な者はいません!」と皆に言って会長になりました。「天理教は世間に

通じないと思っていたが、次々と人がたすかるので、その一端をしつかり通らせて頂きたい」と挨拶をしていました。

私も岩見沢の多くの人にお道の教えを伝えるよう、尚一層頑張りたいと思います。どうぞよろしく。」と締めました。「人をたすけて、ご恩報じ」の道は果てしない.....

た。しかし、同じ班の人達はとても優しく、そして楽しく、日が経つに連れてそれぞれの仲も深まり、陽気に勇んだ毎日を過ごすようになってきました。ひのきしん、修練、おつとめ、また食事や風呂睡眠もみんなと一緒に、和気藹々とした雰囲気にて我々が溶け込んでいるのが心地よく感じます。

ひのきしんでは先月の青年会総会に使ったテントの撤収や、倉庫整理、木材の皮むきなど、日によって様々な作業をしています。少し慣れてきた今は、肩の力が抜けてきたのか、風邪を引く隊員も増えていますが、互いにおさづけや世話取りをして、たすけ合って過ごしています。

北海道で応援してくださいいる皆様の分も、この親神様・教祖のお膝元で、一生懸命伏せ込みの日々を通して頂きます。来年は6月入隊予定です。ぜひ一緒に参加しましょう!

青年会100周年記念総会へ 夕張より40余名が参加!

青年会夕張分会は本年10月28日の青年会創立100周年記念総会を目指し、青年会本部からの基本方針「感謝と挑戦のもと活動目標」全青年会員集結!」初参拝でおたすけの連鎖を!」を掲げ、動員をさせて頂いた。さらに分会の目標として家族でおぢばがえりを勧めており、3組の会員が子どもや奥さん連れで帰参して下さいました。

10月秋季大祭にあわせ帰参している会員を中心に詰所受入の準備を進め、27日朝から100フェス(総会前日イベント)が市内各所で開かれ、ダンス・大人鼓笛バンド・ヴォーカルなどのコンテスト、フットサル・タグラグビー・将棋などの大会、肉料理屋台エリアや巨大バルーン製アトラクションそれぞれに人がごった返した。夕張からはフットサルに12名、将棋に1名がエントリーし、他の会員は肉やアトラクションを楽しんだ。フットサルは残念ながらリーグ1勝3敗で敗退(初戦対戦チームが



優勝した)将棋は古屋一貴さんが大体同力量でグループ分けされた中で2勝2敗の戦績だった。

夕方、詰所オリエンテーションで大教会長様から帰参した会員へ向けにお話を聞かせて頂いた後、本部の夕づとめへ。大賑わいの100フェス夜の部で夕食をとり、帰所



後、夕張前夜祭を開きフットサルの振り返りや卓球などで盛り上がり親睦を深めた。

28日記念総会当日も晴天のご守護を頂き、例年よりも早く本部中庭へ向けて詰所を出発、境内に入ったところで記念撮影し、その写真は道友社のインスタグラムにもアップされた。中庭に入り係の誘導によって、中山大亮青年会長の顔もバッチリと見える正面位置に座ることが出来た。大亮様は100周年は『白紙に戻り一より始める旬』であるとして、新たなスタートを切る上で、「自主性」「楽しむ」「世界だすけ」の三つのポイントを挙げて話された。(天理時報11月11日号に要旨が掲載)その後、中田表統領の祝辞のあと、安藤委員長がこれからの決意を高らかに述べた。

飛行機の関係で総会を中座する

グループや、総会終了後、忙しく詰所で弁当を受取り、リムジンバスや教区手配のバスなど、早々に帰路につき会員が半数ほどいた。午後から、11月のひのきしん隊入隊の者など、残った会員で手分けして詰所の清掃ひのきしんを行い、夕張分会のプログラムが終了した。会員個々で帰参、詰所集合解散のため、宿泊とその料金、旅程の



婦人会

ひなの会

10月21日、第9回ひなの会が鼓笛練習会と同時開催され、スタッフを含め17名の参加者が集まった。始めに、奥様より「おつとめについて」のお話があり、その後食堂にて工藤麻子さん(峰延分)レクチャーによってレアチーズケーキを手作りした。

昼食はバイキングで、沢山の美味しい料理に会話も弾み、参加者の子供達も大喜びであった。午後からはグループに分かれてフリートークの時間が持たれ、先程作っ

取り纏め、送迎・生活スケジュールなど事前準備の甲斐あり、スムーズな進行だった。「詰所、青年会OB皆様の柔軟な対応、手助けのおかげもあり、無事に皆楽しく勇んで終了させて頂きました。紙面を借りて御礼申し上げます。ありがとうございます(青年会一同)



ひなの会、鼓笛練習会と同時開催

て冷やしておいたレアチーズケーキを食べながら、盛り上がった。最後に、2年後にひかえる婦人会創立100周年記念総会に向けて、それぞれで理づくりさせて頂くことを確認し合い終了した。

志加ノ谷分教会 4代会長就任奉告祭

初雪の便りがなく11月10日に、志加ノ谷分教会の4代会長就任奉告祭が、大教会長夫妻、上級兄弟、部内教会、多くの参拝者が集まり、夕張市南清水沢の教会で勤められた。岩佐善昭新会長の(前号略歴掲載)、先代までの会長の尽力にお礼申し上げ、これからの精一杯の努力を誓い、志加ノ谷の道の新しい時代の到来を告げた。

祝賀会は栗山町のパラダイスヒルズで行われ、渡辺公康さんのサクセス演奏、栗山青年による福山雅治マネで「糸」のカラオケリレー、栗山婦人会の歌と踊り、信者さんのカラオケなど余興があり、80名からの来賓が新会長にお祝いの盃を重ねた。



教区ワイワイフェスで 鼓笛演奏

11月4日(日)、北海道教区で開催された『ワイワイフェス』に参加。今年の教区音楽祭はこの行事内で開催となった。当日は高臺鼓笛隊・旭川・上川・天龍支部からの参加者と共に『天理ニコニコドリムバンド』として出演。テーマソング『大好きなおちばへ』、その他1曲を演奏した。



かおちゃん結婚 おめでとー!

大教会長夫妻の四女・かおりさんが、去る11月4日、大教会教祖殿の御前にて、結婚の契りを結びました。お相手は兵庫に住む藤原智也さん。仕事も良く出来、披露宴へ駆けつけた同僚たちからの信頼も厚い、関西弁バリバリのナイスガイ。お酒はほとんど飲めません。

2次会はカラオケなどで大いに盛り上がり、3次会は大教会にて、祝いの宴は夜遅くまで続きました。智也くんかおちゃん、兵庫でもお幸せにね。

庶務部 9月

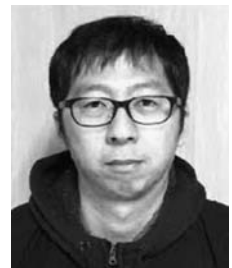
- ▽教人資格講習会 10・27 ~ 11・10
- 高橋多江子(祝 梅)
- 三木 誠(祝 梅)
- ▽初席者
- 道又 由佳(長 沼)
- 大橋 航(由 仁)
- ▽女子青年委員長講習会
- 太田 夏実(石狩川) 10・7 ~ 8
- ▽少年会団長辞令
- 藤田 豊(幌 都) 10・26 ~ 29
- ▽詰所ひのきしん
- 山根ふじの(善進道) 10・25 ~ 28
- 西山菜穂子(善進道) 10・25 ~ 28
- 西山 育夫(善進道) 10・27 ~ 28
- ▽大教会ひのきしん
- 藤田 好道(幌 都) 10・26 ~ 29
- ▽おびや 2件
- ▽おまもり 1件



大教会目録抄 10月

- ▽別席傍聴 1件
- 1日 台風のためたすけ推進会議延期
- 3日 大和さん、上富良野分巡教
- 5日 会長夫妻、清眞布分巡教
- 6日 大和さん家族、幌部分巡教
- 7日 会長、旭都分巡教
- 8日 会長夫人、梶川家婚礼
- 10日 会長夫妻、長沼分巡教
- 10日 会長夫妻、北夕分巡教
- 11日 大和さん、祝梅分巡教
- 11日 会長夫妻、理喜道分巡教
- 12日 大和さん、馬追分巡教
- 13日 大和さん、幌向分巡教
- 14日 たすけ推進会議、祭典準備
- 15日 月例会議
- 15日 秋季大祭
- 16日 国道みまもり隊活動

新少年会団長紹介



幌部分教会
藤田 豊

- 17日 会長夫人、大和さん、夕喜元分巡教
- 18日 会長夫妻、栗山分巡教
- 19日 会長夫妻、札美分巡教
- 21日 婦人会ひなの会、鼓笛練習
- 22日 会長、おちばへ
- 23日 会長、兵神大秋季大祭参拝
- 24日 会長、本部神殿当番
- 24日 会長夫人、おちばへ
- 26日 本部秋季大祭、遥拝式
- 26日 大和さん家族おちばへ
- 27日 青年会本部100フェス開催
- 28日 青年会創立百周年記念総会
- 会長夫妻、帰会

編集後記

今月は、青年会特集のようになりました。100周年の様子を、誌面では多くを紹介できませんが、際立っていたのは、おちばで迎えるスタッフが、総会の日に向けて、次々と今どきのLCC・格安航空機で駆けつける青年を、関空まで迎えに行き、遅くまでリムジンバス乗り場に駆けつけ、泊まる部屋の準備をし、弁当などの食事、宿泊、動向のお世話をし、一昔前の青年会とは違った成長をさせています。

生きる時代ごとに、苦労はある。そこで、明日を見つめて明るく生きるか、仕方なしにかめつ面を通るか。

青年も、新会長も、陽気ぐらしの教えに添って、今を切り開いて行ってほしいと思う。(ま)